

コメ卸 6 割が「販売減」
9 月は改善 2 割、悪化 3 割
全米販の 6 月動向調査

全国米穀販売事業共済（協）（＝全米販）は 19 日、令和 8 年 6 月分のコメ販売動向調査の結果を発表した。会員卸のうち 57 社による回答の集計結果だ。昨年同月比で販売数量が「増加」した卸が約 3 割なのに対し、販売量が「減少」した卸は倍の約 6 割を占有し、販売停滞が続いている。向こう 3 カ月（9 月頃）の見通しは、改善が 2 割、悪化が 3 割。悪化予想が上回り、引き続き厳しい見通しだ。家庭用は特売商品しか売れず、業務用も約 1 割減と指摘されている。

昨年同月と比較した今年 6 月のコメ販売量については、「増えた」卸と「やや増えた」卸の合計（「増加」）が全体の約 3 割（30％）のみ。「やや減った」卸と「減った」卸の合計（「減少」）はそれを上回る約 6 割（56％）を占める（下表①参照）。

①昨年 6 月と比べた令和 8 年 6 月（1 カ月）のコメ販売量

	仕向先別	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った	DI 指数
小売店	大手スーパー	14.0	15.8	14.0	15.8	40.4	36.8
	中小スーパー	15.0	17.5	5.0	17.5	45.0	35.0
	米穀専門店	8.9	16.1	14.3	14.3	46.4	31.7
	その他	0.0	6.4	10.6	21.3	61.7	15.4
業務用	外食向け	8.1	5.4	18.9	24.3	43.2	27.7
	中食向け	1.9	3.7	46.3	25.9	22.2	34.3
	給食向け	0.0	7.7	38.5	17.3	36.5	29.3
合 計		14.0	15.8	14.0	15.8	40.4	36.8

小売店（＝家庭用）向けは、大手・中小スーパー向け、米穀専門店向けとも、「増加」している卸の割合が 3 割前後（25～33％）どまり。販売が減っている卸が過半（56～63％）に及んでいる。

また業務用向け販売は、外食・中食・給食向けとも「増加」は 1 割前後（6～14％）どまり。これを大きく上回って、「減少」が約 5～7 割（48～68％）にも拡大している。

全体の DI（景気動向）指数は 37 となっており、「やや後退」という状況。卸の規模別にも集計しており、規模 A（年間売り上げ 100 億円以上）が 38（やや後退）、規模 B（同 25～100 億円未満）が 51（変わらず）、規模 C（同 25 億円未満）が 23（やや後退）に。大手と零細に不況感の色が濃い。

一方、向こう3カ月先、9月頃の販売状況を見通す予想では、「良い」と見込む卸と「やや良い」と見込む卸の合計（「改善」）が約2割（23%）どまりに。「悪化」（「悪い」と「やや悪い」の合計と見込む卸は、約3割（30%））を占有（下表②参照）。見通しの明るさ・暗さが拮抗しているように見える。

② 3カ月先（令和8年9月頃）の見通し

	仕向先別	良い	やや良い	変わらない	やや悪い	悪い	DI指数
小売店	大手スーパー	2.5	32.5	32.5	25.0	7.5	49.4
	中小スーパー	0.0	28.6	41.1	21.4	8.9	47.3
	米穀専門店	0.0	18.8	37.5	27.1	16.7	39.6
	その他	0.0	18.4	42.1	21.1	18.4	40.1
業務用	外食向け	0.0	13.0	72.2	14.8	0.0	49.5
	中食向け	1.9	11.5	63.5	21.2	1.9	47.6
	給食向け	0.0	5.4	80.4	14.3	0.0	47.8
合 計		0.0	22.8	47.4	24.6	5.3	46.9

小売店向け販売では、大手・中小スーパー向けで改善を予想する卸が3～4割（29～35%）なのに対し、悪化予想の卸も3割（30～33%）となっており、悪化予想がやや強いが、割合が割れている。

米穀専門店向けは、改善が2割（19%）、悪化が倍の4割（44%）という予想に。出来秋に米穀店は、卸経由で高い全農玉を買うより、商人系から概算金ベースの新米を仕入れると想定されているようだ。

業務用販売では、外食向けは改善予想の卸が1割（13%）、悪化予想の卸も約1割（15%）で、割合が拮抗。中食向けは、改善が約1割（13%）、悪化が約2割（23%）で見通しは厳しい。給食向けは、改善予想が1割に届かず（5%）、悪化予想が約1割（14%）。業務用は全体としては現状維持の観が強い。

9月頃を見通したDI指数は、小売店向けの大手・中小スーパーが40台後半で、「ほぼ変わらず」。米穀専門店・その他が40程度で、「後退」と「現状維持」のほぼ境。業務用向けは、外食・中食・給食向けとも40後半で、「ほぼ現状維持」の見通し。卸の規模別では、A（大手）が46、B（中小）が50、C（零細）が45。どの規模の卸も現状維持の見通しが強い。

主な回答理由は次の通り。

【昨年 6 月との比較】

▷米価高騰で販売数量が減ってしまった

▷動きがあるのは特売商品のみ。定番商品は全く売れず厳しい状況が続いている。

【3 カ月前（3 月）との比較】

▷7 年産の在庫処分による特価対応商品だけが売れ行き好調となっている

▷販売量はやや持ち直しつつあるようにも思われるが、コメ離れが進んでいる実感がある。

【3 カ月後（9 月頃）の動き】

▷現状、8 年産米の価格見通しは読みにくい状況だが、昨年から 2 割安は固い感じ。そうすると、3 カ月先の販売量の見通しは横バイと考えている。